

おくたま 町議会だより



159号

平成23年11月5日
発行 奥多摩町議会
電話 (0428)83-2111

第3回定例町議会

第3回定例会は、9月6日から9月16日までの、会期11日間にわたり開催されました。

平成22年度決算の認定

平成22年度の各会計の決算は、本会議初日に提案され、延べ4日間に亘って行われた決算審査について、滝島勇一代表監査委員による審査報告の後、議長と議会選出監査委員を除く、12名で構成する決算特別委員会に審査が付託されました。9月13、14日の2日間にわたり決算特別委員会が開会され、内容説明、質疑等が行われ、16日の本会議で採決の結果、次の全9会計決算とも賛成多数により認定されました。

○認定第1号

一般会計

○認定第2号

都民の森管理運営事業特別会計

○認定第3号

山のふるさと村管理運営事業特別会計

○認定第4号

国民健康保険特別会計

○認定第5号

老人保健特別会計

○認定第6号

後期高齢者医療特別会計

○認定第7号

介護保険特別会計

○認定第8号

下水道事業特別会計

○認定第9号

国民健康保険病院事業会計
(反対・認定第4号、第6号、
第7号・島崎議員)

もみじのカット

監査委員決算審査意見報告

(町長への審査意見書を要約して掲載)

平成22年度の奥多摩町の全9会計の決算書類は、関係法令に準拠して作成されており、関係帳簿及び会計伝票、並びに証拠(しようひょう)類とも照合の結果、決算の計数に誤りはなく、預金残高とも符合し、基金の運用状況、及び予算の執行も適正かつ正確であり、歳入・歳出とも妥当であったことを認める。

審査意見としては、毎月の例月出納検査を通じても感じたことであるが、奥多摩総合開発株式会社、この会社は第三セクターではあるが町に対する依存度が高すぎるのではないか。観光客の誘致、増員が本来の目的であるはずなのに、結果を出していないばかりでなく収益が思ったより上がっていないのが現状である。

地域の雇用の確保という点では、その果たす役割は認めるが、現状に甘えることなく、町の期待に応えられるよう努力することを望みたい。

決算特別委員会質疑

(各会計とも質疑を箇条書きで掲載)

○一般会計

歳入

- ・ 個人住民税の年金特徴の内容
- ・ 法人町民税の増額した理由
- ・ 固定資産税の減額した理由
- ・ 小売店舗からのたばこ税の納付先
- ・ 入湯税の歳出への充当先
- ・ 税の不納欠損を行った理由
- ・ 未収金解消対策の内容
- ・ 地方道路譲与税の今後の見直し
- ・ 住民生活に光をそそぐ交付金の充当事業の内容

歳出

- ・ 公共施設調整交付金の内容
- ・ 電源立地地域対策交付金の今後の状況
- ・ オータムジャンボ配分金の交付基準
- ・ 職員の意識改革と資質の向上
- ・ 職員の超過勤務手当増額の理由
- ・ 庁舎の耐震調査の実施状況
- ・ 防犯灯のLED化の進行状況
- ・ 共同電算システム開発の内容
- ・ 庁用車の購入とリースの判断基準
- ・ 特別会計、企業会計への繰出しの状況
- ・ 財力指数低下の理由
- ・ 小金井、福生町有地の舗装工事の内容と今後の活用
- ・ 古里小学校児童虐待通告の改善状況
- ・ 透析通院特例対応車両借上げ料の内容
- ・ タクシー券、ガソリン券の一人当たりの金額
- ・ フッ素洗腔事業の小学生への対応
- ・ 空家バンクの方向性
- ・ 大多摩観光連盟の事業実績
- ・ 観光協会補助金削減の理由
- ・ 日照対策事業の支出減の理由
- ・ シカ被害跡地の復旧状況
- ・ 花火大会の成果の検証
- ・ 森林再生、花粉症対策事業で不用額が発生した理由
- ・ 防災ハザードマップの作成状況と配布時期
- ・ 消防団員募集に係る問題点
- ・ 消防団員の連絡方法の検討
- ・ 教員住宅の入居世帯数
- ・ 基礎学力を育む学校づくり交付金の使途
- ・ 学校施設アスベスト除去の状況
- ・ 台風時の児童・生徒の送迎の対応
- ・ 休校により削られた事業時間の補完方法
- ・ クラブ活動用の備品購入の状況

○都民の森管理運営事業特別会計

- ・ ソフト事業の充実強化
- ・ 職員の対応の改善

○山のふるさと村管理運営事業特別会計

○国民健康保険特別会計

特に質疑はありませんでした。

○老人保健特別会計

- ・ 保険料改定の内容

○後期高齢者医療特別会計

- ・ 病気予防の取組みの状況

○介護保険特別会計

特に質疑はありませんでした。

○下水道事業特別会計

- ・ 現在の病院の運営状況
- ・ 病院改革プランの推進状況

○国民健康保険病院事業会計

他の町長提出議案と結果

次の議案が提出され、いずれも全議員の賛成により可決又は同意しました。

条 例 等

○議案第 42 号

町税賦課徴収条例の一部を改正する条例

○議案第 43 号

非常勤の特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

○議案第 44 号

防災会議条例の一部を改正する条例

○議案第 45 号

議会議員定数条例の一部を改正する条例

○議案第 46 号

西秋川衛生組合格約

西秋川衛生組合（ごみの共同処理）に加入するための規定を整備しました。

補 正 予 算

○議案第 47 号

一般会計（第 1 号）

○議案第 48 号

都民の森管理運営事業特別会計（第 1 号）

○議案第 49 号

山のふるさと村管理運営事業特別会計（第 1 号）

○議案第 50 号

国民健康保険特別会計（第 1 号）

○議案第 51 号

後期高齢者医療特別会計（第 1 号）

○議案第 52 号

介護保険特別会計（第 1 号）

○議案第 53 号

下水道事業特別会計（第 1 号）

工 事 契 約

○議案第 56 号

奥多摩処理区下水道管渠建設工事その 19 請負契約について

人 事

○議案第 54 号

自治功労者

表彰条例の規定により、小川幸男氏を自治功労者として表彰することに同意しました。

○議案第 55 号

教育委員会委員

教育委員会委員、冲山瑞紀氏の任期満了に伴い、同氏を任命することに同意しました。

・冲山瑞紀氏（再任）

（奥多摩町梅沢 1 5 2 番地 2）

議 員 提 出 議 案

○議員提出議案第 1 号

議会委員会条例の一部を改正する条例

町議会議員選挙

11月20日が投票日です。みなさん投票に行きましょう。

一 般 質 問

23 年 9 月議会では、9 日の 2 日目に 7 名の議員が質問を行いました。（通告順）

竹内和男議員

奥多摩の森林産業の将来について

（答）新たな林産物の活用等を森林整備に盛り込むとともに、木質資源による町の活性化を図っていききたい

竹内 町の森林産業の将来に向けて、具体的にどのような政策を進めていくのか、町の意見は

町長 山林の荒廃やシカの食害による山肌崩壊等の被害拡大を抑えるため、多摩川左岸での主伐を控えていただいていたが、本年 4 月からは主伐が行えるよう町の森林整備計画を修正した。

この修正により森林の伐採が町内全域で行えることとなり、経済林としての価値が出、所有者の意欲にも影響が出るものと思われる。また、国の森林法が改正されたことに伴い、今後も東京都や町の森林整備計画の見直しが予定されており、新たな林産物の活用等が計画の中に反映できるように作業を進めていく。

なお、木質バイオマスボイラの運用が始まると、年間1千200立方メートルの木質チップが必要となるので、町内で木質資源を流通させることにより、町の経済の活性化を図るシステムが構築できないか検討しているところである。

師岡伸公議員

人口透析患者の現状と今後の対応について

(答) 医療費の自己負担は原則として発生しない。遠隔予防医療事業の拡大を図り、予防対策

の充実に努めていく

師岡 ①奥多摩における人口透析患者の現状と今後の対応
②遠隔予防医療事業のより活発な活用について

町長 ①町で把握している患者数は28名である。透析にかかる医療費は、保険給付費や公費負担等により、原則として本人の負担は発生しない。通院のための搬送車が入らない地域の方に対しては、介護保険の事業により、ホームヘルパーがバス路線まで、送迎に伴う身体介護を実施している。

また、人工透析は障害年金の対象となり、年齢の若い人でも受給することができ、町で受付分の障害基礎年金の裁定件数は、平成20年度が5件、21年度1件、22年度3件となっている。
②この事業は、高血圧や将来的に糖尿病予防に大変有効であることから、より多くの住民の参加を得るため、昨年度、事業対象地区に境、中山を追加して9

地区とし、参加者も107名まで増加を図った。平成23年度は、さらに氷川地区、古里地区に規模拡大を図り、なお一層予防対策の充実に努めていく。

木質ガードレールの設置について

(答) 安全性やコストの問題があり、他の分野での活用を検討していきたい

師岡 間伐材等の活用的一端として、ガードレールを設置する考えはないか。また、これまでの実績について問う

町長 東京都建設局では、道路改修途中の歩道柵等に木製の手摺を設置している。ほかにも20の道府県で設置を始めている。しかし、強度の信頼性や耐久性に問題があり、施工単価も鋼製に比べ2倍から3倍であり、町では木製ガードレールの設置は行っていない。今後も他の分野での活用を検討していきたい。

2017雲取山キャンペーンの取り組みについて

(答) ホームページ等を利用した情報発信の強化に努め、登山者や観光客の増加を図っていき

師岡 来たるべく2017年に向け、奥多摩の山の象徴としてアピールしてはどうか

町長 2017年に向けての雲取山を始めとした登山や、森林セラピー事業等については、今後もホームページ等を利用した情報発信の強化に努め、登山者や観光客の増加が図れるよう、東京都の施設とも連携してPRを行っていく。

村木征一議員

もえぎの湯の町民無料開放日にお年寄りや身体の不自由な方を町営バスで送迎サービスを実施したらどうか

(答) 道路状況や運行経費等、総合的に考えると実施は難しいと判断する

村木 温泉まで行く手段がない方のために、送迎を行う考えはないか

町長 もえぎの湯への道路は道幅が狭く、大型バスを始めマイクロバス、キャンピングカーの乗り入れはお断りしている。また、運行経費や乗車定員を超えた場合の対応等も含めて、総合的に考えると、ご提案の実施は難しいと判断する。

観光トイレの清掃と管理の徹底を

.....
(答) 計画的な整備を進めるとともに、衛生的で快適に使用できるように、管理と維持に努めていく

村木 トイレのきれいな観光地は気持ち良く、その観光地に好印象が生まれる。清掃と管理

の徹底を

町長 現在、町及び東京都が設置し町が管理している観光用トイレは39箇所である。それらの清掃については、業者や自治会、個人の方と委託契約を締結している。トイレの利用については、一部にマナーの悪い方が見受けられるほか、老朽化により清掃しても清潔に見えないものもあることから、今後、施設の現況や利用状況等を調査し、計画的な整備を進めていきたい。今後他の観光施設も含め、衛生的で快適に使用できるように、管理と維持に努めていく。

酒井正利議員

再生可能資源利用について

.....

(答) 小水力発電は一部で実施しているが、様々な問題により事業化は難しい。太陽光や風力発電は地形的な条件をクリアーできるか、検討課題とさせてい

ただきたい

酒井 太陽光発電、小水力発電、木質バイオマス等、町の取組み状況と今後の計画について問う

町長 当町の地形に合った発電法として小水力発電があげられ、現に川乗谷の登山口付近に、バイオマストイレ用の小水力発電施設を建設したが、小水力発電事業はある程度の規模で実施するためには、初期投資が必要となるほか、水利権や河川法等の各種法律への対応、公的助成の活用等が必要であると考えられるので、今後も十分に研究していきたい。

太陽光発電や風力発電のご提案もいただいているが、日照時間の確保や風の少ない町でもあることから、今後の検討課題とさせていたきたい。

東日本大震災の教訓について

.....

(答) 建設業組合との協定見直しはすでに行った。防災無線や衛星携帯電話の活用、非常食の備蓄等、災害に備えている

酒井 町と地域建設業との協定の見直し、燃料や食糧の備蓄、通信手段の確保等が必要であると考えられるが、町の見解は

町長 平成22年7月1日に、建設業組合17社と従前の協定の見直しを行った。協定の趣旨は、町内の道路、橋梁、河川及び水道施設等の公共施設は、住民生活を営むうえで重要な役割を担っており、施設の機能回復のための応急、復旧措置を講ずることを目的としている、電話連絡がとれない場合は、防災無線や災害連絡用衛星携帯電話の活用を図り、災害復旧に対応していく。非常食糧については町内31箇所の備蓄庫と防災倉庫に、4万食の非常食を蓄えており、今後も継続的に更新をしていく。

原島伸行議員

東日本大震災（津波原発事故）被災地への復興支援と自然エネルギーについて

（答）自然エネルギーへの取り組みについては、今後、積極的に研究・検討していく。東北地方へは全国規模の復興支援が大切であるとともに、当町においても可能な限りの支援を行っていききたい

原島 ①太陽光発電、小水力発電等、自然エネルギーへの取組みについて②防災教育の一環として、風評被害を受けている観光地への支援について、町の考えは

町長 ①豊富な水資源を利用したの小水力発電の取り組みを進めているが、水利権や各種法律への対応等を含め、今後検討する必要があると考えている。太陽光による発電システムについ

ては、給食センター等で実施しているが、施設の使用電力すべてをまかなうほど大規模なものではない。自然エネルギーへの取り組みについては、町全体で考えていく必要がある、今後、積極的に研究・検討していく。

②見舞金、あるいは皆様からいただいた義援金の支出、岩手県大槌町への職員の派遣、福島県から避難された方々に対しての住民皆様と同様のサービスの提供等、被災地、及び被災者に対して町としてできる支援はすでに行っている。今後も東京都と連携して今後の支援について対応を図っていききたい。また、先月には福島県伊達市の子どもたちを当町に招いて、サマーキャンプが実施された。日頃は外遊びもできない子どもたちの、満足したようすが印象的であった。今後も被災地である東北地方が1日も早く立ち直るためには、全国規模の復興支援が大切であるとともに、当町においても可能な限りの支援を行っていききたい。

島崎利雄議員

高齢者福祉、障害者福祉の充実について

（答）一般会計予算の中で、民生費の占める割合が一番高い。高齢者等の問題について、今、実行しているところである

島崎 高齢化の進展で、高齢化率は41%以上になり深刻な状況である。町政としての対応は

町長 平成23年度一般会計予算、57億5千800万円のうち、民生費は10億6千334万7千円であり、総予算の18.5%を占め、民生費が第1位であり、高齢者、あるいは少子高齢化の問題について、今、実行しているところである。

国民健康保険税の値上げについて

（答）国民健康保険特別会計は

毎年赤字経営となっており、本年度に運営協議会に諮り、今後の計画を策定していく

島崎 高齢化、所得の減少等で住民負担が重くなり、生活が圧迫されている。国民健康保険税の値上げストップを

町長 長引く経済の低迷の影響により失業者等の加入割合が上昇し、保険税の納付率が下がっている反面、医療費の支出は上昇し、全国で50%を超える自治体が赤字経営を余儀なくされている。このため、今後国民健康保険制度を維持するためには、財源の確保が必須となっている。当町も例にもれず、一般会計からの多額な繰り入れを行っているところである。本年度は平成24年度から26年度までの保険税率について検討を行う年となっているので、国民健康保険運営協議会に諮り、様々な角度からご検討をいただいたうえで、計画を策定していく予定である。

イノシシ、サル、シカなどの獣害対策の強化を

(答) 年々被害は減っている状況にあるが、被害を完全に無くすことは難しい。今後も獣害対策を継続していく

島崎 全町的に被害が拡大している状況の打開を。現状はどうなっているのか

町長 捕獲や電気柵の設置等により、毎年農作物の被害は減っているが、自然豊かで野生動物と共存する町としては、有害鳥獣による被害を完全に無くすことは難しいと思われる。しかし、今後とも町民皆様が安心して農業に従事できるよう、獣害対策の取り組みを継続していきたい。

生活支援型のミニバスの実施を

(答) 既存のバス路線と重複しての運行は認可は受けられない。生活支援型の送迎サービスを、調査結果を踏まえ検討していく

島崎 お年よりの方々の強い要望と、地域が分散していることでも早急に実現を

町長 現行のバス路線と重複しての運行は、既存のバス事業者との競合に当たするため、国からの認可は難しい状況にある。都市部では市街地が拡大し、道路幅が狭く路線バスが運行できない地域に限定して、小型のバスを導入して運行している。

現在、当町においては通院が困難な高齢者を対象に、ワゴン車による送迎サービスを行っているが、買い物難民といわれるような方々の生活支援型の送迎サービスは、この9月に実施する高齢者ニーズ調査の結果を踏まえ、今後検討していく。

震災対策、土砂等の崩壊対策を

(答) 建設業組合との協定に基づき、災害復旧には迅速に対応したい。危険度の高い個所から土砂等の崩壊対策を実施していく

島崎 安心安全の対応の取組みを

町長 災害時の対応については、奥多摩町建設業組合と災害復旧の協定を締結しており、有事の際の対応を図ることで、町内のライフラインの復旧を迅速に行う考えである。また、土砂等の崩壊対策についても、危険度の高い個所から実施していく。

増田ひさ子議員

太陽光発電の設置に助成を

(答) 太陽光発電は安定的に電力を供給するものではないので、技術水準の向上を待ち助成を検討したい。避難所へは他の発電設備の設置も検討していきたい

所への設置計画の有無④現在、国・都から建設費用の助成があるが、町からの助成の検討は

町長 ①町では把握していない。平成22年度末までの、東京都全体での補助金交付申請数は、1万8千件とのことである。

②出力20キロワットの太陽光パネルを屋根に設置しているが、平成22年度の発電量実績は、2万2千192キロワットで、4千172キロワットの余剰電力を東京電力に売却している。

③他の公共施設への設置計画は、現在のところない。しかし、小中学校校舎、及び体育館は耐震補強工事も完了しており、町内で最も安全な大規模避難所となるので、太陽光発電に限らず、非常用発電機等の設置を検討していく。

④当町では、地形的な条件により都市部に比較して導入が進んでいないと考えられるが、今後、太陽光発電設備の技術水準の向上を待ち、助成制度を検討したい。

増田 ①町内で太陽光発電を設置した家は何軒あるか②公共施設では給食センターに設置されているが、現状が知りたい
③他の公共施設、学校や避難場

第2回臨時町議会

第2回臨時会は10月20日に開催され、次の議案を全議員の賛成により可決しました。

○議案第57号

平成23年台風12号に係る奥多摩町救難緊急措置条例

○西秋川衛生組合議会議員の選挙

次の3名が選挙により選任されました。

- ・原島伸行議員・竹内和男議員
- ・師岡 智議員

議 会 日 誌

8 月

3日 東京都町村長・議長合同会議

三多摩上下水及び道路建設促進

協議会（以下「三水協」）第3委

員会

9日 三水協第2委員会

10日 奥多摩・檜原間林道鋸山線改修

都道編入促進協議会定期総会

15日 東京都戦没者追悼式

18日 国道139号松姫トンネル建設促

進連絡協議会総会

19日 三か町村連絡協議会

21日～28日

東京都区市町村議会議長会日中

交流事業（中国北京市）

24日 総務文教常任委員会（町内視察）

26日 経済厚生常任委員会（町内視察）

31日 議会運営委員会

9 月

5日 消防行政連絡会

6日 第3回定例会（第1日）

7日 連合審査会

9日 第3回定例会（第2日）

13日 第3回定例会（第3日）

決算特別委員会（第1日）

14日 決算特別委員会（第2日）

15日 三水協正副会長・委員長会議

16日 第3回定例会（第4日）

17日 青梅・奥多摩交通安全のつどい

22日 戦没者合同慰霊祭

27日～28日

関東町村議会議長会会長会議

（山梨県早川町）

10 月

4日 三水協陳情行動

7日 西多摩地区消防大会出場隊激励

11日～16日

小笠原諸島世界自然遺産登録記

念式典

15日 社会福祉協議会法人化40周年

記念福祉大会

17日～19日

全国町村議会議長会会長会議

（宮城県仙台市）

19日 議会だより編集委員会

広域行政圏体育大会前夜祭・開

会式

20日 議会運営委員会

第2回臨時会

22日 西多摩地区消防大会

24日 消防行政連絡会

27日 東京都道路整備事業推進大会

29日 奥多摩ふれあいまつり

30日 羽村市市制施行20周年記念式

典

農林産物品評会表彰式

31日 秋川衛生組合定例議会

西秋川衛生組合臨時議会

編集後記

この異常気象、汗をふいてもふききれない、高温注意情報が伝えられる厳しい暑さが続き、自然災害が起きなければと心配です。

東日本大震災は今やつと復興に向かい始めたところでありますが、原発問題はまだまだ終息の目途が立たないうちに台風12号・15号の豪雨等で、被害が大きく被災地の対応が危ぶまれています。

荒れ狂った日本列島。その反面世界遺産とまちづくりで、東京都小笠原村「小笠原諸島」が新たに世界遺産として登録されました。

3月11日、東日本大震災以降、久々の朗報に日本中に笑顔があふれました。世界遺産を活用した地域振興、まちづくりをいかに進めるか、そして奥多摩町の遺産といえ、自然豊かな森林や公園で、森林・林業を生かした産業の行方を、住民参加意識の高い町づくりが着実に進められると思います。

（竹内 和男）

原島 伸行 小澤 春義

増田ひさ子 村木 征一